

5月24日（水） 朝礼のお話し

どうして葉っぱは緑色なの？

5月も半ばを過ぎてしまいましたね。一年生は入学してもう1ヶ月以上、すっかり学校にも慣れましたね。六年生の皆さん、小学校最後の1年はもう1/12以上、10%ほどが過ぎてしまいましたよ。時間のたつのは早いですね。

さて今日のお話です。今日は木や草の緑色についてお話ししたいと思います。この季節になると木々の若葉がすっかり緑色になり、とてもきれいですね。でもこんなことを考えたことはありませんか。「どうして木や草の葉は緑色が多いんだろう？」

花には色々な色のものがあるのに、葉はほとんどが緑色ですね。これは考えて見るとちょっと不思議ですね。色々な葉っぱがあってもいいのに、どうしてほとんどの葉っぱは緑色なのでしょう？

身の回りにあるものが目に見えるのは光があるからですよ。多くのものはこの光があたって、跳ね返ることで目に見えます。この私たちの周りには光、色々な色がありますが、元はたった3種類しかないそうです。それは 緑、赤、青の三色です。「光の三原色」なんていいます。光ではこの三色があればどんな色の光りでも作れるそうです。図工で使う絵の具みたいですね。

で、いよいよ葉っぱの緑の話しに入ります。お日様の光にも緑と赤と青が入っています。木や草は葉っぱでこの光を受けて、自分が生きるための栄養を作っています。ところが栄養を作るために大事なのは赤と青の光なんだそうです。緑はあんまり使っていないんです。栄養を作るために大事な赤と青の光は葉っぱが吸い取ってしまいます。でも緑の光はいらないので外に捨ててしまうんです。この葉っぱが捨ててしまった緑の光が私たちの目に入って緑色に見えると言うわけです。つまり、葉っぱの緑色は木や草がにとってはいらぬ物だったわけです。ちょっとおもしろいですね。もし、緑の光を使って栄養をつくる草があったら、その草の葉は赤や青になるのかもかもしれませんね。

今日は木や草の葉が緑になっているわけについてお話ししました。ちょっと難しいお話しだったけれど、一年生も最後までがんばって聴いてくれました。さすがけやき小の一年生。もう立派にお兄さんやお姉さんのような聴き方ができますね。それでは今日の校長先生のお話はこれで終わりです。今日も最後まで一生懸命聴いてくれてありがとう。